

医療法人社団 唱和会



明野中央病院

AKENO CENTRAL HOSPITAL

2017年度

事業報告書

vol.11

2017年4月～
2018年3月



伝説の医師
向井 啓
感動
太陽
～1964
【放送予定】8月22
「社会の常識」
成功に導いた
公を向井 理

ホームページもご覧ください <http://www.akenohp.jp/>

看護部ブログも更新中 フェイスブックもチェック!

明野中央病院

検索



病院理念

医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める

基本方針

- 一、家庭的な優しい医療・介護の実施に努めます
- 一、地域の皆様から安心・信頼される病院づくりに努めます
- 一、患者さんひとりひとりの権利を尊重するように努めます
- 一、たえず医療・介護の質の向上に努めます
- 一、地域の健康増進・病気の予防に努めます





ご挨拶

理事長 中村 英次郎

明野中央病院は、1974年に明野の開拓・団地の新造に伴い人口が急増する中で、整形外科医の中村 裕によって開設されました。中村 裕は医師として早朝から深夜まで診療・手術を行い、地域医療に邁進しましたが、一方で、先駆的な福祉工場である「社会福祉法人 太陽の家」を開設し、大分国際車椅子マラソン大会の開催を提唱するなど、身体障がい者福祉にも尽力し、その功績は現在でも高い評価を受けております。

中村 裕は常々、「医療・福祉の最終目標は、人間がいかに生きがいを得るかということである」と語っていました。つまり、病気や怪我をされた方が、最新医療の技術で身体状況を改善させるだけでなく、元の生活、家庭・職場復帰をなし得るまで応援し、見届けるといことです。たとえば、脊髄損傷の若者を手術し、車椅子に乗れるようにするだけでなく、退院後に笑顔で生活できるようにスポーツ活動を教え、仕事を紹介し税金を納付させ、一人の社会人として胸を張って生きていけるようになるまで見届けていたのです。この全人的で優しさに満ちた考えは、本院の病院理念である「医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める」に受け継がれています。

我が国は2025年問題を控え、医療・介護体系の改変が進み、病院は急性期、回復期更に慢性期と機能別に細分化された結果、複数回の転院や主治医の交替、療養の場所が自宅からどんどんと離れていくということは決して珍しいことではありません。施した最新医療、その後の介護の結果、本人やご家族の満足感が低いこともしばしば見受けられます。今こそ我々医療関係者は、結果として患者さんの生活の質の向上に貢献し得るかどうか、急性期の段階から常に念頭に置きながら行動し、退院後の生活まで、できる限り見届けていくことが肝要と考えます。

明野中央病院の職員一同は、創設者である中村 裕の考えを現在に活かしながら、責任のある医療・介護を実行していく所存でございます。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

目 次

病院理念 基本方針	
ご挨拶	理事長 中村英次郎 3
地域交流会(ふくろうの会)	6
ボランティアの会	7
病院概要	8
施設基準	9
病院沿革	10
創設者 中村 裕について	11
職種別職員数	11
年間行事	12
コラム	19
部 門 報 告	
医療安全管理室	22
地域医療連携室	23
こつ・かんせつ・リウマチセンター	24
診療部	
内 科	26
消化器内科	28
整形外科	29
麻 酔 科	32
医療情報部	
診療情報管理室	34
情報システム課	35
メディカルクラーク課	36
医療技術部	
リハビリテーション科	37
栄 養 科	40
薬 剤 科	41
放射線科	42
臨床検査科	43
臨床工学科	44

看護部	
看護部	45
外来	47
2階病棟	48
3階病棟	50
手術室	51
事務部	
医療事務課	54
明野中央在宅医療介護センター	
明野中央介護支援センター	55
訪問看護ステーションふくろう	56
委員会報告	
委員会	
医療安全管理委員会	58
感染対策委員会	60
褥瘡・栄養対策委員会	61
業務改善委員会	62
教育委員会	63
その他	
NST（栄養サポートチーム）	64
糖尿病相談会	65
静脈血栓塞栓症（VTE）対策チーム	66
親和会	67
ニュースリリース	68
編集後記	73



地域交流会（ふくろうの会）

活動内容

当院は、病院理念に「医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める」を掲げ、地域の皆様から安心信頼される病院作りを目指し日々努力しています。真に地域に根ざした医療機関として、皆様方の期待に応えられる病院としてのあるべき姿を模索しています。

ふくろうの会は、広く地域の皆様方と意見交換を行い、医療全般に関する苦情、要望、地域の病院として当院の果たす役割等についてご意見を頂きたく2004年9月に発足しました。近隣の自治会の方を中心に、年に数回お集まりいただき、病院の近況報告、病院への要望等の意見交換をしています。

メンバー 2018年3月現在（敬称略）

- 湯田 国男（ふくろうの会会長）
- 倉八 誠（明野日の出町自治会長）
- 甲斐田生嗣（明野高尾自治会長）
- 首藤 和也（明野東町自治会長）
- 小柳 義明（明野旭町自治会長）
- 飛河 克子（日本リウマチ友の会大分支部長）



ボランティアの会

活動内容

花壇の花の手入れなどのグリーンボランティア、患者さんやお見舞い客にお茶やコーヒーを振る舞うティーパーティーの開催、健康関連講演会の企画やお手伝い等、当院の活動の一端を病院ボランティアの方々が担っています。

暑い夏や寒い冬にも病院の花壇にきれいな花が咲いているのは、ボランティアの方々の日頃の地道な活動のおかげです。春と秋に開催されるティーパーティーは、患者さんだけでなく病院職員にも大好評です。



グリーンボランティア



ウッドデッキ

メンバー 2018年3月現在（敬称略）

会長	志水 篤信				
副会長	赤田 久代	田代 千枝			
	加来 邦子	倉住れい子	坂井 礼子	佐々木友江	
	高平 潤子	高木 美和	石田 洋子		



ボランティアの皆さん



ティーパーティー



病院概要（2018年3月現在）

診療科目

内科 整形外科 リウマチ科 消化器内科 形成外科 リハビリテーション科 麻酔科
放射線科 ペインクリニック内科

病床数

75床（一般）
2階病棟 一般病床：45床（地域包括ケア病床10床含む）
3階病棟 回復期リハビリテーション病棟：30床

専門医研修施設

日本整形外科学会研修施設
日本手外科学会研修施設
日本リハビリテーション医学会研修施設
日本高血圧学会研修施設
日本リウマチ学会教育施設

学会認定 専門医・指導医

日本内科学会 専門医
日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医
日本整形外科学会 専門医
日本脊椎脊髄病学会 指導医
日本手外科学会 専門医
日本リハビリテーション医学会 指導医 専門医
日本リウマチ学会 指導医 専門医
日本消化器病学会 専門医
日本消化器内視鏡学会 専門医
日本神経学会 専門医
日本麻酔科学会 専門医
日本ペインクリニック学会 専門医

施設基準

7：1入院基本料	薬剤管理指導料
診療録管理体制加算1	別添1の「第14の2」の1の(3)に規程する 在宅療養支援病院
医師事務作業補助体制加算1	
急性期看護補助体制加算	在宅時医学総合管理料・特定施設入院時等 医学総合管理料
療養環境加算	
栄養サポートチーム加算	検体検査管理加算Ⅱ
感染防止対策加算2	CT撮影及びMRI撮影
後発医薬品使用体制加算1	外来化学療法加算1
病棟薬剤業務実施加算1	脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ
データ提出加算	運動器リハビリテーション料Ⅰ
回復期リハビリテーション病棟入院基本料1	呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
地域包括ケア入院医療管理料1	輸血管理料Ⅱ
入院時食事療養Ⅰ	輸血適正使用加算
ニコチン依存症管理料	麻酔管理料1
がん治療連携指導料	





病院沿革

- 1974（昭49）年1月 医療法人社団恵愛会 大分中村病院の分院として開院（病床数65床）
『救急指定病院』『労災指定病院』の指定取得
- 1978（昭53）年11月 『医療法人社団唱和会 明野中央病院』として、分離独立
- 1997（平9）年3月 社団法人日本整形外科学会認定医制度による『研修施設』認定取得
- 1999（平11）年5月 第一期増築工事完成（病床数70床）
バイオクリーンルーム設置 ヘリカルCT設置
- 7月 身体障害者福祉法第19条の2の規定による『更生医療を担当する医療機関』の指定取得
- 2002（平14）年6月 第二期増築工事完成（病床数75床）
- 7月 MRI設置
- 9月 パワーリハビリテーション機器導入
- 2004（平16）年1月 一般病床45床、特殊疾患療養病棟（30床）に変更
- 3月 『臨床研修病院』指定取得（厚生労働大臣指定）
- 2005（平17）年9月 一般病床のうち、8床を『亜急性期入院医療管理料』として届出
- 10月 日本医療機能評価機構 認定取得
- 2006（平18）年4月 『亜急性期入院医療管理料』を8床から10床に変更
院外処方箋発行開始
- 9月 マルチスライスCT設置
- 2007（平19）年2月 特殊疾患療養病棟（30床）を回復期リハビリテーション病棟（30床）に変更
- 2008（平20）年1月 日本手外科学会 基幹研修施設に認定
- 10月 回復期リハビリテーション病棟入院基本料1
- 2009（平21）年7月 『こつ・かんせつ・リウマチセンター』開設
- 11月 『日本リハビリテーション医学会 研修施設』に認定
- 2010（平22）年4月 『日本高血圧学会 研修施設』に認定
『日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設』に認定
- 9月 『日本リウマチ学会教育施設』に認定
- 10月 日本医療機能評価機構Ver.6更新
- 2014（平26）年4月 亜急性期病床（10床）を地域包括ケア病床（10床）に変更
- 2015（平27）年9月 増改築工事 着工
- 2017（平29）年3月 増改築工事 完成

創設者 中村 裕について



創設者 中村 裕 (1927年～1984年)

- 1951年 九州大学医学部卒業 同大学整形外科医局に入局
- 1960年 英国ストーク・マンデビル病院に留学
- 1961年 第1回大分県身体障害者体育大会を開催
- 1964年 東京パラリンピックの日本選手団長を務める（以降、1980年までの全ての夏季パラリンピックの団長を務める）
- 1965年 大分県別府市に、障がい者の自立を目的とした「社会福祉法人 太陽の家」を設立
- 1975年 第1回極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会（フェスピック）開催
- 1981年 第1回大分国際車いすマラソン大会の開催に尽力
- 1984年 死去 享年57

当院は、1974年1月に創設者であり前理事長である中村 裕により開設されました。

中村 裕は、日本ではまだ「リハビリテーション」という言葉も普及していなかった昭和30年代に当時の医療先進国イギリスに渡り、最新の医療事情、特に障がい者の社会復帰のためのリハビリテーションと障がい者スポーツを学びました。その経験を日本に持ち帰り、1965年に障がい者の社会復帰を支援する社会福祉法人「太陽の家」を創設しました。

整形外科の医師としては、大分中村病院（1966年12月）と明野中央病院という2つの病院を開設し、障がい者スポーツの分野では、東京パラリンピックや極東・南太平洋障がい者スポーツ大会（フェスピック）などの開催に尽力しました。

1981年の国際障害者年を記念して中村の提唱により始まった「大分国際車いすマラソン大会」は、すでに長い歴史を刻み、今では世界最高レベルの障がい者スポーツ大会として世界中の車いすアスリートの目標となっています。

職種別職員数

148名（2018年3月31日現在）

医 師	9名	理学療法士	16名	臨床工学技士	1名
薬 剤 師	3名	作業療法士	8名	管理栄養士	2名
看 護 師	69名	言語聴覚士	1名	医療ソーシャルワーカー	1名
准 看 護 師	2名	診療放射線技師	4名	事務職員	21名
看護補助者	9名	臨床検査技師	2名		



年間行事

2017年

- 4月
 - 職員親睦会
 - 医療ガス研修会
- 5月
 - 中学生1日看護師体験
 - ふれあい看護師体験
 - 感染対策研修会



医療ガス研修会



中学生1日看護師体験



ふれあい看護師体験

- 6月
 - 防災訓練
 - 第12回 ボーリング大会
 - 救急医療研修会



ボーリング大会



救急医療研修会

7月 ● 医療事故対策研修会

8月 ● NST研修会



医療事故対策研修会



NST研修会

9月 ● 中学生職場体験
● 職員親睦会
● 労働安全・個人情報保護研修会



労働安全研修会



個人情報保護研修会

10月 ● ミニバレーボール大会
● 感染対策研修会



ミニバレーボール大会



感染対策研修会



11月 ● 院内研究発表会

12月 ● 忘年会
● 防災訓練



防災訓練



忘年会

2018年

1月 ● 第10回 新春明野寄席
● 第1回 明野こつ・ロコ講座
● 医療倫理研修会



新春明野寄席



医療倫理研修会

- 2月 ● 第2回 明野こつ・ロコ講座
● 医療安全研修会



明野こつ・ロコ講座



医療安全研修会

- 3月 ● 第3回 明野こつ・ロコ講座
● 病院総会



病院総会



明野こつ・ロコ講座



「～骨粗しょう・ロコモ教室～明野こつ・ロコ講座」を開催

骨粗しょう症やロコモティブシンドローム（運動器症候群）について理解を深め、要介護状態や寝たきりになるのを防ごう！ という勉強会、“～骨粗しょう・ロコモ教室～明野こつ・ロコ講座”を開催しました。

骨や筋肉などの運動器の健康対策をテーマとして取り上げ、毎月1回第4金曜日の全6回コースで行いました。今年1月から6月まで、ご応募いただいた第1期生（近隣地域の住民の方約30名）にご参加いただきました。整形外科専門医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリセラピストなどの専門職がチームを組んで、楽しく勉強できるよう企画しました。毎回違うテーマを取り上げ、腰痛や膝痛などの病気の解説の他、ロコモ予防体操や骨と筋肉に良い料理レシピの紹介など、盛りだくさんの内容を用意しました。皆様の健康作りに少しでもお役に立てたでしょうか？

当院では、病院運営の基本方針の1つに「地域の健康増進・病気の予防に努めます」を掲げています。今後とも、地域の皆様の健康づくりに少しでも貢献できるような“楽しくて役に立つ”情報を発信していきたいと考えています。次回の企画もどうぞご期待ください！

各回の内容

テ　　マ		そ　の　他
1回目	開校式 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）について ～ロコモ対策で要介護や寝たきりを防ごう	【各回共通】 受付時に血圧測定などの健康チェック。ロコモチェックや筋力強化のためのロコトレ体操。薬の飲み方や転倒予防対策、介護保険や栄養管理についての相談コーナーも実施しました。
2回目	骨粗しょう症と骨折	
3回目	膝の痛み	
4回目	腰の痛み	
5回目	骨と筋肉に良い食事 サルコペニアとは？	
6回目	いつまでも自分で歩いていきいきライフ 閉校式	



たくさんの方にご応募いただきました



骨密度を測ってみました



足の筋力、大切です



理学療法士が骨と筋肉を鍛える体操を指導しました



ゴムを使った体操。身近な道具を効果的に使いましょう



ゴムを使ってボート漕ぎの効果が得られる運動



薬剤師が骨粗しょう症の薬について説明



管理栄養士が骨や筋肉を強くする料理を紹介



通所リハビリテーション（デイケア）を開始しました

「寝たきりや介護状態になるのを防ぎたい」
「筋力をつけるための運動習慣をつけたい」
「もっと長い距離を楽に歩けるようになりたい」
…このような声にお応えして、今年1月から通所リハビリテーション（デイケア）を開始しました。3年前に訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所を立ち上げ、訪問リハビリテーション、訪問診療など、在宅医療・介護に取り組んできました。今回開始したデイケアは、1～2時間の短時間集中型のリハビリですが、病院のリハビリテーションセンターを使用するため、リハビリ機器や道具も充実しており、理学療法士、作業療法士、介護福祉士が利用者1人ひとりに合ったリハビリ計画を立てて個別に対応しています。病院には内科、整形外科、麻酔科の医師が常勤していますので、緊急時の対応も万全です。「高齢になっても住み慣れた自宅で自立した生活を送りたい」…そんな方々の平穏な暮らしを全力で支えたいと願っています。



デイケアの送り迎えは“ふくろう便”です



広いスペースにリハビリ機器も充実したリハビリテーションセンター



変わらないもの ランドマークツリー

当院は、1974年の開院以来、今までに大きな増改築工事を3回行ってきました。残念ながら、多くの樹木が工事のために整理され、その都度、建物や駐車場に変わってきました。開院当時は、敷地内に南国風の広い庭園があり、リハビリ用の小路や癒やしの木陰など、その情景と空気が患者さんの回復力を高めていました。広い芝生ではゴルフのショートアプローチやキャッチボールが楽しめたものです。時代は移り、当手を偲ぶものはほとんどなくなりましたが、開院当時より変わらない樹が1本あります。正面玄関前の棕櫚（シュロ）です。元々、棕櫚の木は3本ありましたが、他の2本は駐車場や西館建物の工事のために伐採されました。今では正面玄関前の1本だけが、当時と同じ場所に残っています。車の通行の邪魔、伐った方が駐車場も広くなる、などの意見も多くありましたが、この1本だけはどうしても残したい樹でした。今では、開院当時の光景を偲ばせる大切なランドマークツリーとなっています。

ランドマークツリーといえはもう一本の気になる樹、桐（きり）の樹のことも書かねばなりません。この桐は、所謂、実生の樹で、開院時に植えたものではありません。樹の位置は、旧病院本館の北壁隅で、地面はコンクリートであり、フェンスが張られていたところでした。建物の陰でじめじめしていた場所でしたが、コンクリートの割れ目に種が鳥などを介して着床したのでしょうか、いつの間にか大きく成長し、毎年初夏には可憐な花をつけます。幹には当時のフェンスが今でも食い込んだ状態になっており、苦難の成長過程と驚くべき生命力を感じます。樹木医に相談したところ、金属は抜釘しない方が良さそうです。やや痛々しい感じもしますが、この桐の樹も当院の歴史を偲ぶランドマークツリーとなっています。



開院当時。正門入って右に広い庭があった



玄関前にそびえる棕櫚の樹



元気に葉が茂る桐



幹はフェンスの金属を巻き込むように成長した



癒しの花々

お花をもらって喜ばない人はいないでしょう。可愛らしい季節の花々は、見る人に癒しを与えてくれます。当院の花壇には、ボランティアの方のお世話のおかげで、年間を通じてきれいな花々が咲いています。朝、職員が切り花を病棟談話室のテーブルに飾ります。また、入院中に誕生日を迎えた患者さんには、朝の病棟回診の時に、小さな一輪挿しにその季節のお花を生けてプレゼントしています。可愛いお花は、ひょっとして高額なお薬より、患者さんの病気や怪我の回復に効果があるのでは？ …と感じることもあります。ボランティアの方に感謝、感謝ですね。

